

課題名：見回り×チャット×BI連携による地域包括型在宅介護DXパッケージモデルの構築と効果検証～施設の見守りの安心を在宅へ～

代表機関／代表者：株式会社ケアモンスター／田中 大悟

分担機関：ウイングアーク1st株式会社、株式会社最中屋

研究期間：令和7年8月～令和8年3月

研究開発目的

- 在宅介護における核心的課題である「情報の分断」と「早期異変検知の遅れ」を同時に解消し、データ駆動型の地域包括ケアを実現することを主たる目的としています

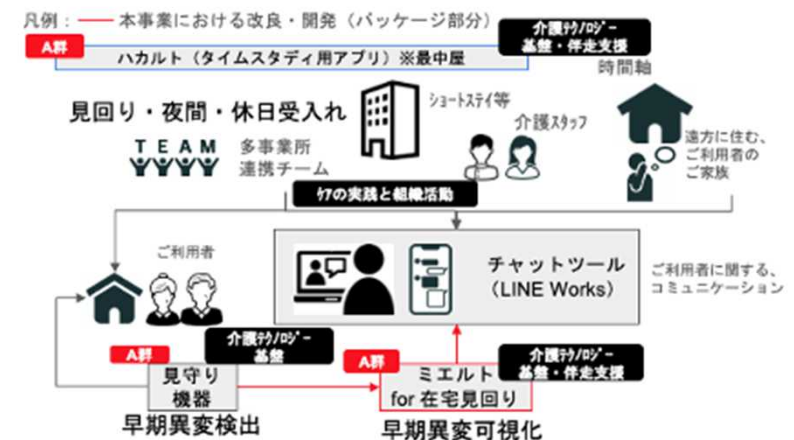
取り組み

- 2つの社会福祉法人を協力先としてDXパッケージを導入し、地域包括型在宅介護DXパッケージモデルの構築と効果検証を実施します
- DXパッケージ
 - ①見守り機器の導入：各種在宅介護用センサー
 - ②BIツール「ミエルト for Home Care」
 - ③タイムスタディアプリ「ハカルト for Home Care」
- 実施内容
 - ①在宅介護現場の人材不足・情報連携の断絶を解消すること
 - ②独居高齢者の地域生活を安定化させるケアマネジメントの実現とレスパイトケアの課題解消
 - ③地域全体で高齢者を支える体制構築

期待される成果

- 職員の業務負担軽減と働きがい向上
間接業務時間の削減、職員満足度調査数値の向上 etc
- ケアの質向上
関係者への第一報共有時間の短縮、個別性の高いケアの実施数増加 etc
- 利用者・家族のQOL 向上と安心感
ショートステイ等のレスパイトケア利用率増加 etc

DXパッケージモデル



期待効果・プロダクトイメージ

